

カ 議会だより かみまち



先輩から後輩へ
(1/10 宮崎子ども獅子舞引き継ぎ式)
(宮崎小学校)

議会中継はこちらから

加美町議会映像配信

検索

<http://www.kami-town.stream.jfit.co.jp/>

12月定例会／1月臨時会

加美町未来・夢子ども議会	P2
定住自立圏の形成に関する協定の変更	P6
一般質問 町政を問う(13人が質問)	P8
議会モニター座談会	P24
あれからどうなった(追跡シリーズ)	P26



夢子ども議会

～19人の子ども議員が熱弁～



④ 議長



①



⑤ 一般質問席



②



⑥ 一般質問席



③

子ども議会

11月22日

町議会は、昨年11月22日、議会の仕組みや行政の仕事を理解・学習し関心を高めてもらう目的で加美町 未来・夢 子ども議会を開催しました。

子ども議会は、前年度に続き今回で2回目を迎え、本番前には議員が各小学校を訪問し、事前勉強会も新たに行いました。

当日は、町内の小学校を代表した19人の子ども議員が、町のことについて普段思っていることなどを町長や教育長に堂々と質問や提言を行いました。

加美町 未来・夢 子ども議会宣言

私たち子ども議員は、加美町の全小学生の代表として次のことを宣言し、各学校で主体的な活動に取り組みます。

- 1、私たちは、加美町民であることを誇りに思い、これからも緑豊かな自然や文化・環境を守り続けるための活動に、積極的に取り組みます。
- 2、私たちは、加美町が将来も、安全・安心なまち、環境に優しいまち、誰もが心豊かに成長できるまち、そして、誰もが楽しく暮らせるまちになるよう努力していきます。



「加美町 未来・夢 子ども議会」を終えて

加美町小中学校校長 会長 高橋 恒久



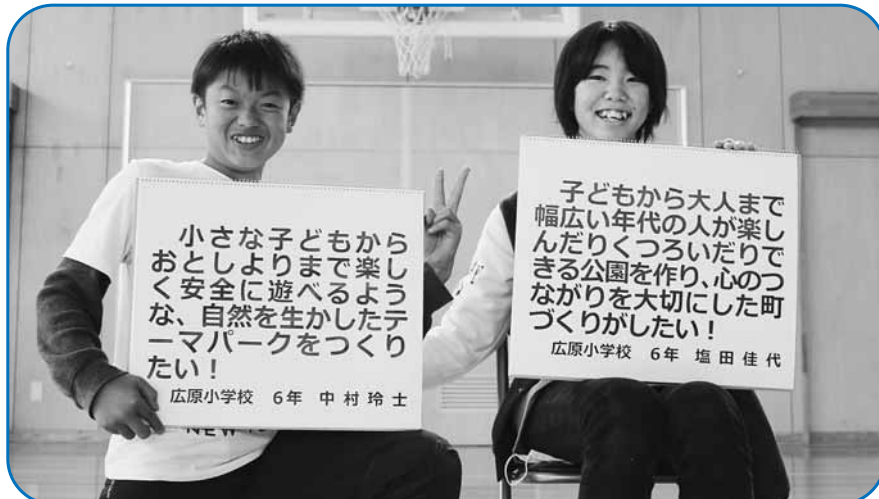
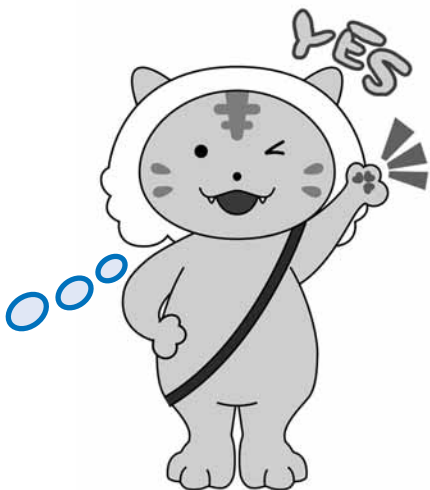
子ども議会の開催で子どもたちは、加美町の現状や未来について、より一層真剣に考えるようになりました。

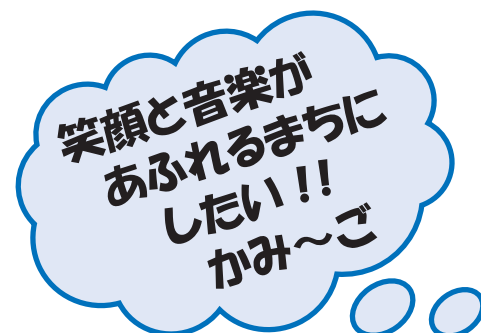
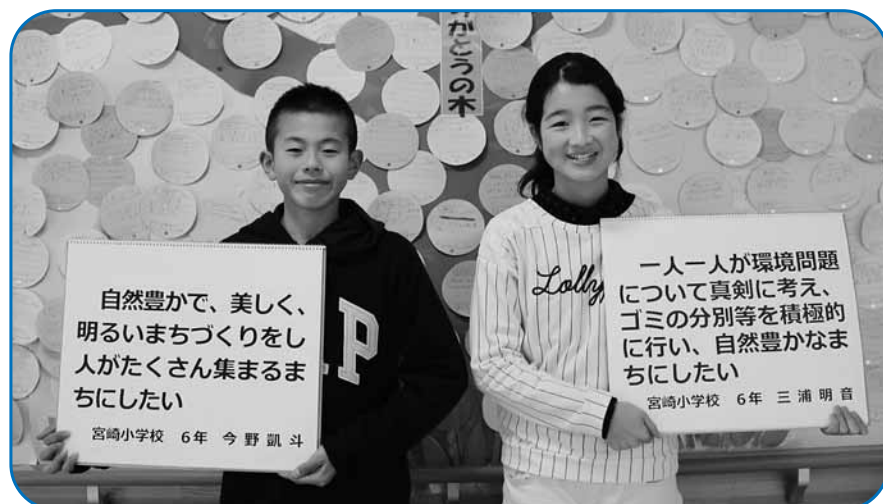
2年目の今回は、近所にある具体的な問題に関心が及びました。さらに議場の質疑応答により、自分たちもまちづくりの一員であることを自覚できたようです。今後子どもならではの発想で、加美町の将来への夢や希望を語れる機会を与えて頂きたいと願っています。

①議員が各学校を訪問し、議会の仕組みなどについて事前勉強会を実施 ②子ども議員へ任命書が手渡たされる ③いざ議場へ子ども議員入場 ④議長の浅野裕南さん(鳴瀬小) ⑤～⑦町長や教育長へ一般質問を堂々とする子ども議員 ⑧町長の分かりやすい丁寧な答弁 ⑨かみ～ごから記念品がプレゼントされる ⑩副議長の細谷優海さん(中新田小) ⑪子ども議会宣言を朗読する三浦明音さん(宮崎小)



私たちは こんなまちにしたい





魅力ある大崎地域へ連携強化

大崎定住自立圏構想

大崎定住自立圏構想は、「中心市」の都市機能と「周辺自治体」の医療・産業振興・教育・施設利用・消費生活など相互に役割分担し、連携・協力することにより、圏域全体の活性化を図り、地方圏からの人口の流出を食い止め、人の流れを創出し、人口定住を促進するものです。

今回、地域防災力の充実強化と大崎圏域の世界農業遺産への取り組みによる地域振興の2項目を新設し、より連携を強化するものです。

地域防災力の強化

防災圏域は、平成24年度に大崎市が中心となり、色麻町・加美町・涌谷町・美里町の4町が協定を締結しました。現在、消防団に関して、団員の高齢化や、労働形態の変化により、団員の確保が厳しい状態にあり、今後ますます女性や会社社員の入団が必要になると考えられています。

問 新設される地域防災とは。

答 消防団員の減少、不足により女性や会社社員の入団が不可欠になってくる。女性ならではのきめ細かな対応力や従来の居住地での入団だけでなく、勤務地域での入団を認めることで、消防団員を確保し、地域防災力の充実強化を実現するものである。

世界農業遺産

世界農業遺産は、社会や環境に応じながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業や、はぐくまれた文化・景観及び生物多様性などが一体となった世界的に重要な農林水産業システムを国連食糧農業機関（FAO）が認定するものです。

問 大崎圏域の世界農業遺産への取り組みによる地域振興は。

答 大崎耕土の巧みな水管理による水田農業システムである。

今後、認定されれば様々な事業展開をしていくことになる。

大崎定住自立圏構想に関するその他の質問

問 圏域マネジメント能力強化に係る研修会の内容は。

答 これまでは市と各町が1対1で取り組んできたが、今後は、近隣の構成市町で行う研修会にお互い参加して、スキルアップを図っていく。

問 1市4町が全項目で一致した状況なのか。

答 色麻町・涌谷町では、一部の項目で一致できないものもあったが、今回から各市町で全項目において一緒に取り組むことになった。



おいしいお米ができるかな

補正予算

主な補正予算	内 容	補正額
	弁護士調査委託料	92万円
	震災復興特別交付税返還金	3,213万円
	臨時福祉給付金給付事業	7,200万円
	地域型保育給付費	2,170万円
	鹿原小学校施設設備設置工事	62万円

震災復興特別交付税の返還

東京電力からの賠償金を受領した時点で、次年度の特別交付税で差し引きすることになっていた。精算できない分を今年度から国に返還させる制度ができました。

鹿原小学校の施設整備

オープンスペースになっている教室に、アコーデイオンカーテンを設置することで、暖房効果を高めるための工事です。



教育環境の整備で暖房効果の高い教室へ

弁護士調査委託料

加美町社会福祉協議会に委託しているやくらいアットハウスに係るもので、虚偽証言があったかどうかを町が責任を持って調査するように県から求められました。その事実確認のために弁護士に調査依頼をした費用です。

国へ意見書提出

「米政策改革」に対する稲作農家の不安を払拭し経営の安定と担い手経営の再生産の確保を求める意見書

1、生産者の不安を払拭し、地域における円滑な生産調整を推進するための措置として、産地交付金を含む水田の直接支払交付金については、戦略作物などへの支援を明確に位置づけ、将来に向けた継続的な支援をすること。

2、収入減少影響緩和交付金（ナラシ）の着実な実施とともに、現在検討を行っている収入保険の導入により、担い手経営の安定対策を構築すること。

3、日本型直接支払いなど水田農業の持続的発展に資するための各種施策の充実強化を図ること。

人権擁護委員の推薦同意

人権擁護委員は、人権相談や人権の考えを広める活動を行う民間ボランティアで、法務大臣からの委嘱となります。

今回、任期満了に伴い、小野田地区では、引き続き古内晴男さんを、中新田地区では、新たに橋本洋子さんを人権擁護委員として推薦することに同意しました。



橋本 洋子 さん
(十日市)



古内 晴男 さん
(原 町)

任期：平成29年 4月1日
～
平成32年3月31日まで

町政を問う 13人が登壇

似顔絵を
かいてくれた
おともだち

加美町立認定こども園

おのだひがし園

きりん・ぞう組



一般質問目次



通告1 **三浦 進** (みうら すすむ) 9ページ

1. 汚染廃棄物の早期処理の決意は
2. バイオマス構想の取り組みは



通告8 **高橋 聡輔** (たかはし そうすけ) 16ページ

1. 既存の公園も精査する必要があると思うが
2. 町と企業で意見の相違があった場合は



通告2 **早坂 忠幸** (はやさか ただゆき) 10ページ

1. 建設事務所の設置場所は
2. 宮崎地区の袋小路解消は



通告9 **米木 正二** (よねき しょうじ) 17ページ

1. 冠水常襲地帯の解消策は



通告3 **佐藤 善一** (さとう ぜんいち) 11ページ

1. 在宅の医療・介護の体制整備は



通告10 **工藤 清悦** (くどう せいえつ) 18ページ

1. 健康寿命を延ばす施策は
2. 小野田地区商店街の活性化は



通告4 **一條 寛** (いちじょう ひろし) 12ページ

1. 地域での支え合いの体制づくりは
2. 3世代同居・近住への支援策を
3. 大崎市中山平までの道路整備



通告11 **三浦 英典** (みうら ひでのり) 19ページ

1. 今後の福祉行政は
2. 教員の仕事が多忙では



通告5 **伊藤 由子** (いとう ゆうこ) 13ページ

1. 公園の冬期の活用は
2. 焼却せずに減衰するまで待つべきでは



通告12 **木村 哲夫** (きむら てつお) 20ページ

1. 生活困窮者自立支援制度の現状と課題は



通告6 **味上庄一郎** (みかみ しょういちろう) 14ページ

1. 設置場所を再考すべきでは
2. 中新田地区商店街の活性化は
3. 国立音楽院



通告13 **沼田 雄哉** (ぬまた ゆうや) 21ページ

1. 町長の描く加美町の将来像は



通告7 **三浦 又英** (みうら またひで) 15ページ

1. 職員の安全衛生管理は
2. 米の生産調整廃止への対応は

一般質問とは、議員が町政全般に関して、町長や教育長など執行機関に対し質問することで、定例会（年4回）ごとに行われます。



三 浦 進 議員

放射性廃棄物

汚染廃棄物の早期処理の決意は

町 長

安全に、風評被害などを出さないように処理

問 12月末に行われる市町村長会議に臨む町長の方針は。

町長 町単独としてはなく広域行政事務組合として、統一した見解で臨むべきと考えている。

問 8000トン以下の汚染廃棄物の早期処理の決意は。

町長 安全に風評被害などを出さないように処理していく。

問 報道で「町内の全量を自前で処理する」との考えを明らかにしたとあるが。

町長 濃度の低いものについては、それぞれの自治体で処理をするという努力が必要であるという趣旨で発言した。

問 すき込み処理に対する考え方は。

町長 農地は避けるべきだと考えている。農協などの関係者と意見を交わし、安全に風評被害を起さないように処理をする。



田代放牧場に一時保管の利用自肅牧草

地方創生

バイオマス構想の取り組みは

町 長

バイオガス化など三つのプロジェクトに取り組む

問 バイオマス産業都市構想で特別目的会社を設立するところだが、どのような会社か。

町長 特別目的会社は、特定の事業をするための出資を募る会社である。アマタ持続可能経済研究所が主体となって運営する。

問 今後のバイオマス産業都市構想の取り組みは。

町長 バイオガス化プロジェクト、未利用木材資源の燃料化、薪ボイラー導入プロジェクトを概ね5年以内に手掛ける。

問 国立音楽院開設に向けた施設工事と学生の応募状況は。

町長 現在、工事の進捗状況は82%で、出願状況は12人である。



鳴瀬地区の液肥散布

建設事務所の設置場所は



早坂 忠幸 議員

町長 今後も加美町への要望を行う



筒砂子ダムの環境影響評価説明会

問 用地買収から建設の移行時期は。

建設課長 用地補償の調査に入る時点で建設段階と捉えている。

問 ダム建設には、20〜30年間多くの人が携わることになり、加美町の活性化に繋がる。加美町への建設事務所誘致活動は。

町長 加美町に設置してもらう方向であることと聞いています。今後も要望していく。

問 ダム下流の湧水対策は。

建設課長 正常流量を確保する計画となっている。

問 鳴瀬川は、旧三本木町までが国管理で、加美町に入ると県管理となっており、管理状況が良くない。上流域も国管理にはできないか。

町長 鳴瀬川を上流まで全て国管理とすることは、現実的に厳しい。

活性化対策

宮崎地区の袋小路解消は

町長 県に要望していく

問 宮崎地区の活性化は袋小路解消が必要である。国有林林道の県道に向けた整備計画の要望は。

町長 大変よい視点だと思つので、さらに県に要望していく。

問 こども公園建設は、ゆるらんど付近のことだが、現在管理している方々との話し合いは。

町長 基本計画の段階であり、計画が進んだ段階で振興公社にも相談していく。



林道整備が期待される岩堂沢ダム周辺

問 宮崎地区拠点整備事業への来年度支出予定額は。

町長 平成29年度は600万円程度必要になる。

問 国立音楽院の申し込み状況は。

企画財政課長 現在12人となっている。

問 50人の募集定員を大きく下回る場合、会計検査で指摘され、地方創生事業の補助金返還が起きると思うが。

町長 東京の本校では、例年2月や3月に願書が増えるということであり、引き続き努力し成功させたい。

在宅の医療・介護の体制整備は

町長

地域で支えていく形を検討していく

問

介護保険制度の改正により、在宅医療・介護連携の推進について、国から求められているが町の対応は。

町長

加美町と色麻町が合同で加美郡在宅医療・介護連携推進協議会を立ち上げ、平成29年4月からの事業実施に向けて具体的な検討に入っている。

問

事業実施に向け町の要支援者サービスの基準・内容・保険料などの負担割合は。

町長

訪問・通所型サービスのとも、現行相当のサービスで行い、今の予防給付と同額の支払いを検討している。町の負担割合も、これまで同様変わらない。

問

在宅医療、在宅介護には限界がある。

夜中に容体が急変し、主治医が不在でも代わりの医師が看護師とともに駆け付け体制を、常に組んでおくことが重要であると思うが。

保健福祉課長

切れ目のない医療・介護の連携を進めながら、ボランティアなどを含め、事業者・利用者などに説明し、地域で支えていく形で検討する。

問

介護支援などのボランティア活動を行った際に、その活動にポイントを付与し、介護保険料の支払いなどに充てられる、介護支援ボランティア制度を創設している。

町長

介護保険の枠だけでは対応できない生活支援を含めて、平成29年度第7期介護保険事業計画の策定に向け検討する。



佐藤善一 議員



加美郡在宅医療・介護連携推進協議会



歌声喫茶で介護予防へ（住民バス予約受付センター）



一條 寛 議員

福祉

地域での支え合いの体制づくりは

町 長 協議体を設置し検討する



生活支援体制整備事業の協議体設置に向けた勉強会

問 高齢者の日常のちよっとした困りごとなどを、住民や関係機関が連携して、地域で支える体制づくりを進める必要があると思うが。

町長 平成29年度から生活支援体制整備事業に取り組み、区長・民生委員を中心とする関係者で協議体を設置する。高齢者支援の情報を整理し、どのような支援ができるか検討する。

また、地区コミュニティ推進協議会を対象に、課題について話し合いを進めている。

問 相互扶助の考え方について、意識の共有化をどう進めるか。

町長 1月と4月に行ったアンケート調査をもとに課題の抽出を行い、みんなで地域計画を作るという機運づくりに努める。

問 社会福祉協議会などに協力を得る考えは。

町長 国の制度に集落支援員制度があるので、活用できるのではないかと考えている。

移住定住

3世代同居・近住への支援策を

町 長

住宅取得補助金が一助に

問 地域の活性化・子育て・介護をすすめるため、親元との同居、近住に補助を行う、転入促進事業導入の考えは。

町長 ファミリースマイル住宅取得補助金が、転入促進や、親元同居・近住の一助になっていると思う。

問 ファミリースマイル補助金に3世代同居・近住、町外からの転入に対し上乗せする考えは。

企画財政課長 今後の検討課題としたい。

問 加美町では、以前に人口一人当たりの交付税額は19万円との話だったが、現在は。

企画財政課長 交付税の算定方法が毎年変わり、わずかに減っていると思うが、人口増は町財政を大きく支えると考えている。

観光振興

問

活性化のため、岩堂沢までの林道を活用する方策は。

建設課長

宮城北部森林管理署と併用林道協定を結ぶことで、通行が可能になる。



新生活がスタートするスマイルタウン



伊藤 由子 議員

こども公園

公園の冬期の活用は

町長

冬なりの遊びを体験させたい

問 小学生と保護者を対象にしたアンケート結果から分かったことは。

町長 保護者は「子どもの創造力」「やってみたいを大切にする」が重要と答えている。

子どもは「アスレチック・秘密基地・ツリーハウス・川遊び・木登り」がしたいと答えている。

問 アンケートによると、体験・冒険型を望んでいる。公園を体験の場・自然との触れ合いの場と位置付けては。

町長 自然と触れ合い、自然の中でチャレンジをし、冒険できる公園になるよう検討している。

問 ゆくらくと周辺を予定地としているが、冬期の活用は。

町長 ゆくらくなどの集客も合わせ、新たな観光地になるようにしたい。冬は冬なりの遊びがある。また、薪ストーブの周りで本の読み聞かせなどを体験させたい。



今日はどんなお話かな？

放射性廃棄物

焼却せずに減衰するまで待つべきでは

町長

場合によっては保管することになる

問 8000kg以下の放射性廃棄物は、県内で最も多いが内訳は。

町長 7500kgのうち3500kgがほだ木であった。それだけシイタケ農家が多かったと言える。

問 県は、一斉焼却の方針だが他の方法も認めているのか。

町長 400kg以下については、すき込みも可能であった。各自治体で、濃度の低いものは、焼却によらない処分というところも検討していると思われる。

問 加美町のほだ木は、ほとんどが100kg以下なので焼却すべきではない。牧草なども時間をかけて減衰するまで待つべきでは。

町長 現場を見ると、ほだ木は土に返りつつある所が多いため、焼却するのは非現実的・非合理的である。場合によっては保管することになるので、色々な方法を調査研究していく。

問 大崎広域行政事務組合議会では、焼却炉のある3か所で住民説明会を開催し「住民の判断を待つ」と言っているが。

町長 町としては、焼却施設・一般廃棄物の最終処分場がある地域住民の反応を、見守るしかない。



土に返りつつあるシイタケのほだ木



味上 庄一郎 議員

設置場所を再考すべきでは

町長 最高の場所と考えている



冬には陶芸体験なども

問 こども公園設置場所をゆーらんと周辺としているが、再考する考えは。

町長 子どもや保護者の思いを実現するためには、最高の場所と考えている。

問 旭小の子ども議員から普段、猿や熊など鳥獣被害に恐怖を感じているとの質問もあったが。

町長 どこにつくろうと危険性はある。リスク低減のための安全対策を講じていく。

問 降雪による冬季閉鎖が余儀なくされると思う。観光の視点からも、国道347号通年通行に合わせ、薬菜の麓につくるべきでは。

町長 冬には陶芸体験などもでき、古民家を活用して昔の遊びができる。加えて、里山経済の確立という地域資源によるお金が循環する仕組みにも寄与できればと考えている。

商工振興

中新田地区商店街の活性化は

商工観光課長

合意形成に時間がかかる

問 中新田地区商店街活性化の、現時点での計画は。

町長 計画は中新田商店街にぎわいづくり委員会の活動からうまれた。活性化に向けて商店街活性化検討委員会を設立し、検討してきたが、まだ具体化されていない。今後、意見を集約して考えていく。

問 11月29日に、中新田花楽小路商店街振興会の拠点施設準備組織第4回設立委員会が開催されたが、その内容は。

商工観光課に異論の声も届いており、合意が難しい状況がある。合意形成のためには、もう少し時間を掛ける必要がある。

問 商店街自体の過疎化が進んでいる。産業経済常任委員会の資料では、やません跡地に拠点施設を作り、平成31年供用開始とあるが計画通りで良いのか。

商工観光課長 平成31年を目指して話し合いを進めてきたが、合意形成に時間がかかることもある。

国立音楽院

町長 問 国立音楽院を修了しても、学歴はつけないが高校などの反応は。先生方が心配しているのは、学歴以上に修了してから仕事があるかないかである。



寅やの屋根で踊る中新田火伏せの虎舞

職場環境

職員の安全衛生管理は

町長

健診とストレスチェックで

問 職員の健診の状況は。

職場健診と人間ドックを実施している。

問 義務づけられたストレスチェックは。

587人からチェックシートを回収。結果に基づき、高ストレス者に対し、臨床心理士、産業医による面接指導と支援を行っている。

総務課長 587人からチェックシートを回収。結果に基づき、高ストレス者に対し、臨床心理士、産業医による面接指導と支援を行っている。

問 チェックの結果に基づいた働きやすい職場環境づくりの考えは。

職員や産業医で構成される衛生委員会を検討する。

週休日の振替をとれるようにしている。

問 行政課題への取り組みや新たな事業の展開で、職員の仕事量が増えているのでは。

仕事の見直しとあり方を変えるなど、イベントの廃止も検討している。

町長 仕事の見直しとあり方を変えるなど、イベントの廃止も検討している。



三浦又英 議員



心身ともに働きやすい職場環境を

農業振興

米の生産調整廃止への対応は

町長

情報収集しながら取り組んでいく

問 生産調整廃止に向けた国・県の動向は。

平成30年度から、生産業者・出荷業者など一体での生産調整を国が示している。

県は、水田農業振興会議で整理し、地域農業再生協議会に素案を示す予定である。

問 バイオマス産業都市構想と農業との連携は。

肥料として、液肥を稲作などに利用し、循環型農業に取り組む。

熱は、農産物の加工に活用し、新しい産業を創出する。

問 日量15トンプラントで生産される液肥の利用面積と作物は。

米約71ha、ネギ16haに散布を考えている。

問 世界農業遺産の認定申請と稲作の将来展望は。

認定されれば、1市4町の農産物・加工食品を認定商品と定め、地域ブランド商品として発信できると考えている。



将来の明るい農業政策を



高橋 聡 輔 議員

公園管理

既存の公園も精査する必要があると思うが

町 長

維持管理費が膨れ上がらないように考える



安全安心な公園管理を

問 健康社会の実現に向けて、公園のあり方をどのように捉えているか。

町長 誰もが健康で心豊かに暮らせる町をめざす上で、公園の果たす役割は大変大きいと考える。

問 現在、町で管理している公園の数と維持管理費はいくらか。

建設課長 21公園を管理しており、造園業者・シルバー人材センター・行政区・老人クラブなどの団体に合計約3100万円で委託している。

問 管理体制の再編や業務の細分化をすれば、河川部などへの管理エリアの拡大は可能か。

建設課長 河川道路の草刈りなどをシルバー人材センターや行政区などに委託する形で対応することは可能である。

問 新たに造ることも公園は、自然を生かしたものになると維持管理費が増えると考えられる。既存の公園も精査する必要があると思うが。

町長 今後すべての公園を存続させるかどうかも含めて、維持管理費が膨れ上がらないように考えていく。

観光振興

町と企業で意見の相違があった場合は

商工観光課長

モンベルでも町への誘客が利益と考えている

問 ジャパンエコトラップの内容と進捗状況は。

町長 モンベルが設定する、人力で旅をするルートのことである。現在、委託調査を行っており、国道347号を活用し、自然や町めぐりも満喫してもらう計画である。

問 町とモンベルとの間で意見の相違があった場合は。

商工観光課長 加美町のフィールドで、アウトドア愛好家に楽しんでもらうことが、モンベルの利益になると考えている。



モンベルフェアでのボルダリング体験

問 若者を引き付ける取り組みの進捗状況は。

町長 ぶな林にある展示交流施設を、ボルダリングの施設に改修している。

問 サイクルステーションの今後の展開は。

商工観光課長 薬師の湯の駐車場に国の補助金を活用し整備する。ゆくらんど周辺や町めぐりのプランの調査を依頼している。



米 木 正 二 議員

災害対策

冠水常襲地帯の解消策は

町 長

河川整備計画の見直しを要望

問 大雨のたびに繰り返される名蓋川や深川などの増水による冠水常襲地帯の抜本的な解消策は。

また、多田川、名蓋川の河川整備計画の見直しを要望している。深川については、樋門に水中ポンプ6台が配置された。

前田地区では平成26年度から、下水道事業の雨水対策に取り組んでいる。

町長 県では関東・東北豪雨を踏まえ、水位周知河川などの水防計画を行っている。



冠水常襲地帯の抜本的な解消策を

問 多田川、名蓋川について、どういった要望をしているのか。

建設課長 両河川とも、上流の整備計画が無いので、河川掘削や堤防の改修、支障木の伐採を要望している。

問 計画に盛り込んでもらえるような働きかけは。

建設課長 年度初めの北部土木事務所での要望会や、県の予算編成時に要望事項を提出している。

問 鳴瀬川本流と多田川は水位周知河川の指定になっているが、名蓋川と深川の指定の見通しは。

建設課長 今のところは難しい状況にある。

問 県では、平成29年度に4河川の追加を予定している。これに指定されるよう努力すべきでは。

町長 町として、なお一層要望していく。



多田川に設置されているテレメーター

問 遠隔測定ができるテレメーターの設置は。

建設課長 鳴瀬川と多田川に設置されており、名蓋川にも設置の予定がある。多田川には、ほかに監視カメラの設置計画もある。

問 住民の生命と財産を守ることは、政治と行政の最大の責務である。改良を進め、成果を出すことを熱望する。

町長 命を守ることが一番大事である。ハード・ソフト両面の整備に向けて県に何度も要望していく。

健康寿命を延ばす施策は



工藤 清悦 議員

町長 高齢者も対象に公園整備



グラウンドゴルフで健康長生き

問 加美町の高齢化率は、今年4月で33・2%となっている。高齢になっても充実した生活を送るための健康寿命を延ばす施策は。

町長 保健推進員や区長の呼びかけで、行政区単位で健康教室を実施している。

また、介護予防元気応援講座などを実施している。

問 老人クラブや地区の健康維持活動での人材育成が重要と思うが。

町長 町が新たに養成するというよりは、身近な所にリーダーになり得る人の発掘に努めたい。

問 健康づくりに向け努力している人たちのため、公園に健康増進遊具を設置しては。

町長 公園は子どもたちのためのものではないので、高齢者もターゲットにした公園整備計画を作成していきたい。

商工振興

小野田地区商店街の活性化は

町長

まちの駅設置を検討中

問 国道347号の通年通行による小野田地区商店街の活性化対策は。

町長 小野田地区でも、にぎわいづくり委員会が活動し、「あいっえおのだマップ」が作成された。商工会ではコミュニケーションビジネス事業として、まちの駅設置を検討している。

問 やくらい施設群への交流人口増加策は。

町長 トレッキングやカヌー、自転車などを楽しんでもらうコースの設定を検討している。また、施設を改修して、ボルダリングができる新たな施設を設置していく。



まちの駅 募集中

問 通年通行に伴い交通量が増加すると思うが、道路の整備は。

町長 歩道の整備や、クランクの解消について県に要望している。坂

本的に解決するためには、バイパスの整備が必要になってくる。

国や県に対して、強力に働きかけをしている。

今後の福祉行政は

町長

地域コミュニティをベースに

問 現在、福祉事業は不妊治療・老人の介護・障害者支援など幅広く行われている。中には自らは声をあげない人もいます。町長は、今後の福祉行政をどのように考えていくのか。

ボランティアや各組織の育成に力を入れていく。

問 相談に来る人は複合的に問題を抱えている。窓口はワンストップになっているか。

内容は多岐にわたっているが関係する課などと連携をとりながら進めている。

問 心を閉ざし自ら声を上げられない人に、こちらから手を差し伸べるコミュニティソーシャルワーカーの必要性は。

コミュニティソーシャルワーカーは都市型であり、加美町では地域の絆がある。地域コミュニティをベースに取り組んでいく。

町長 自助・共助・公助が大事。家族・親族・地域・行政が相まって支援していくのが良い。



三浦英典 議員



地域の支えで安心をお届け

学校教育

教員の仕事が多忙では

教育長

教員の加配などで対応していく

問 教員の仕事が多忙になっているが現状をどう認識しているか。

教育長 教員の事務や仕事が大変多様であり、とりわけ生徒指導に関わる時間が非常に増えてきている。教員の加配、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや教員補助の配置などで対応していく。

問 ストレスを抱えている教員が多くなっているが調査はしたか。

教育総務課長 各教員のメンタルの問題などは、把握していない。厚生労働省の調査では教員の疲労度は一般勤労者の3、4倍高いとの報告もある。ストレスを抱えている教員は少なからずいると思う。



放課後も忙しい先生方

生活困窮者自立支援制度の現状と課題は



木村 哲夫 議員

町 長 制度について周知を徹底していく



県北部自立相談支援センター「ひありんく」

問

平成27年4月から生活困窮者自立支援法が施行された。生活困窮者への対応の現状と課題及び、宮城県北部自立相談支援センター「ひありんく」との連携は。

町長

就労可能な人には、生活保護受給に至る前の段階で早期に就労相談支援を行い、生活困窮状態から脱却、自立を促進している。

町では北部保健福祉事務所の「ひありんく」に業務を委託しており、状況に応じた支援プランが作成され、さまざまな支援機関などと連携をしながら進めていく。

今後、広報などを含めた周知が必要と考える。

問

滋賀県野洲市が「くらし支え合い条例」を制定している。福祉は行政の1部門ではなく、存在意義そのものであると宣言したが、町長の見解は。

町長

まさに福祉というのは行政そのものだと思っている。課税強化も大事ではあるが、納税できる市民を増やしていく取り組みも必要で、仕事をつくり出すことが大事だと思う。

問

就学援助制度の周知は。

教育長

経済的理由により就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して援助費を支給する制度である。広く周知するため、広報紙や案内文書を学校から保護者に配布している。



平等に楽しく学べる環境を

問

就学支援をする標準要保護者認定基準を緩和する考えは。全国的な事例なども参考に、判断したい。

教育総務課長

問

スクールソーシャルワーカーの現状は。今年度、県教育委員会よりスクールソーシャルワーカーが1名派遣されている。要請のある各学校を訪問して不登校やいじめなどの問題を抱える児童生徒、その保護者の悩みなどを聞いて、指導助言を行っている。現在、十数人の児童生徒と関わっている。

教育長

問

スクールソーシャルワーカーの対応状況は。

教育長

個々に対する関わり方が、まだまだ十分とは言えないので、より実態に合った方向で、前向きに考えていく。

町長の描く加美町の将来像は

町長

持続可能な町の実現をめざして

問 広原スマイルタウンに続く小野田下原地区の分譲の考えは。

町長 15区画程度で面積は70坪から100坪を想定している。広原地区同様に新婚、子育て世代向けの分譲と考えている。

問 観光振興で新年度に向けたビジョンは。またインバウンド（外国人観光客の誘致）の考えは。

町長 加美町振興公社が観光施設の核となり、モンベルフレンドタウン

による入込客の増加のため、取り組みを進める。また、インバウンドは、今後確実に増加すると思われる。モンベルとの連携を図りながら、積極的に取り組む。

問 農業所得向上の観点で薬用植物栽培を進めている現状は。

町長 薬用植物研究会を設立して、町内4カ所に圃場を設け、カンゾウ・コガネバナ・ムラサキ・トウキなどの栽培中である。概ね5年後を目標に製薬会社との試験栽培、また、本格的な薬用植物の生産を開始できるように進めていく。

問 バイオガス化プロジェクトの1億7000万円の委託費の費用対効果は。

町長 生ごみの再利用に伴い、従来のごみ焼却に要する費用なども順次減少していく。さらに、事業の効果として、年間1億2000万円ほどの間接効果を見込んでいる。事業の投資効果は十分にあると思っている。



すくすく育て 加美町の宝

問 町長の描く加美町の将来像は。

町長 持続可能な町を実現するためには「地域資源を活用したお金の循環・雇用の創出・健康で心豊かに幸せに暮らしている社会」にしている。目指す将来像が実現できると考えている。

く必要がある。町全体で子どもたちの成長を応援し、子育てしやすい環境をつくっていく。そういった地域経済、社会をつくっていくことによって町



沼田雄哉 議員



加美町地場産品PR（モンベルフェア）

臨時会 1月12日

3団体と指定管理契約を更新

体育施設9施設・土づくりセンター・やくらいハイツ

指定管理者の決定

総合体育館を含む体育

関連施設9施設を(株)オーエンスと平成29年4月から5年間、加美町土づくりセンターを(一社)加美町畜産公社と同4月から3年間、やくらいハイツを(株)やくらいコーポレーションと同4月から5年間、それぞれ指定管理者を指定することに全会一致で可決しました。

問

収支計画の中で、人件費が5年間同額だが、指定管理選定委員会では問題視しなかったのか。

答

人数を変えずに、内部異動で抑えて行くとのこと、決して人件費を上げないということではない。

問

人件費と管理運営費は明確にすべきでは。また、自主事業は。

答

(株)オーエンス仙台支社全体での収支計画と理解している。人件費は、契約社員・時給・日給制度であったが、今後、すべての職員が月給制度へ統一すると聞いている。

問

今後の社会体育事業との関わりは。

答

平成29年度に立ち上げる総合型地域スポーツクラブと(株)オーエンスと教育委員会が、連携などを協議し実践していく。

町有地を売却

JA加美よつばに、給油所・自動車整備工場として貸していた土地を、9499万円で売却することに、全会一致で可決しました。



放射性廃棄物試験焼却棚上げへ

田代岳指定廃棄物最終処分場建設候補地調査特別委員会

平成28年11月11日・平成29年1月12日

町長より 市町村長会議の報告

11月3日及び12月27日に宮城県主催で市町村長会議が開催されたことを受けて、これまでの経過や会議内容などについて委員会へ報告がそれぞれありました。

県の方針案の説明の後、焼却の安全性や加美町の保管状況、今後の対応について質疑応答が行われました。

問

大崎地域広域行政事務組合で混焼処理する場合、どれくらい年数がかかると思うか。

答

1市4町の分を大崎の3つの焼却炉のみで焼却すれば10年以上かかる。

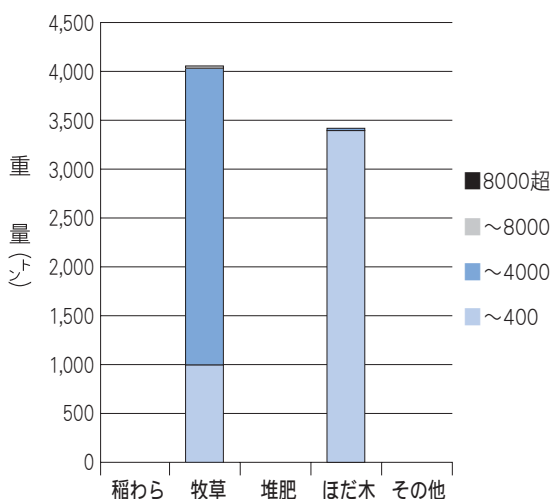
問

町としてどう対応するのか。

答

県の焼却処分という方針を大崎地域広域行政事務組合として受け入れるかどうかを協議する。堆肥化・すき込み処理についても検討していく。

種類別保管重量 (ト)



委員会レポート

議会と町民が一体となった議会だより

議会広報編集調査特別委員会（平成28年11月1～2日）

平成28年11月1日から2日、山形県庄内町・川西町両議会を視察して研修を行いました。

庄内町議会では、「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことをゆかいに、ゆかいなことを真面目に書く」（作家 故井上ひさし氏提唱）を委員会の憲法としています。担当を専任制にしており、役割分担が徹底されていました。

川西町議会は、2年連続全国コンクールで最優秀賞を受賞している実力のある議会です。議会と町民が一体となった議会だよりを目指すため、写真部門においては写真愛

好者を、文章部門においては教員経験者にそれぞれアドバイザーとしてお願いしているとのことでした。

新人議員は、広報の委員会に所属することが必須であり、日本一を目指すため、全議員が委員会の活動費を負担して協力するなど、議会広報に対する本気度が感じられました。

参加した委員は、次の通りです。

味上庄一郎（委員長）・猪股俊一（副委員長）・早坂伊佐雄・高橋聡輔・工藤清悦・下山孝雄（議長）



編集方法についての意見交換会（川西町議会）

委員会レポート

団体・グループの要請で出前講座

議会運営委員会（平成28年11月8～10日）

委員会複数所属制を導入

（福岡県粕屋町議会）

改正前は、総務・建設・厚生各常任委員会、それぞれ5人体制で委員会活動をしていました。

所管事務調査を、多様な角度から審査・調査するため、委員会条例を改正し、各常任委員会定数を8人としました。

これにより、7人の議員が常任委員会への複数所属で活動しています。

議会出前講座を開催

（佐賀県白石町議会）

「皆さんの会合へ議員を呼んでください」これが白石町議会出前講座のキャッチフレーズで、議会の活動を知らせるために、町民の皆さんの会合へ議員が出向いています。10人以上の団体・グループの要請により議会や町政全般、希望による特定課題について説明責任を



粕屋町議会との意見交換

果たしています。

「検討します」後日報告

（長崎県長与町議会）

長与町議会では、「答弁事項の対応状況報告実施要綱」を定めています。

定例会において、一般質問で町長や職員が「検討する」と答弁した質問について、その後どのように取り組んだのかを報告の対象としています。

町長は、「議会答弁事項の対応状況調査」を60日以内に作成し、質問議員に報告しています。

参加した委員は、次の通りです。

工藤清悦（委員長）・伊藤信行（副委員長）・三浦又英・一條寛・高橋源吉・伊藤淳・佐藤善一（副議長）・下山孝雄（議長）

特集

モニター 座談会

議会だよりモニター ＋ 広報委員

平成28年度議会だよりモニターには53号（平成28年5月1日発行）から56号（平成29年2月1日発行）までの議会だよりの感想・評価をお願いします。

今回、モニターとの座談会を開催し、「分かりやすく読みやすい広報紙づくり」をテーマに、モニターから議会だよりの感想や議会への要望などについて、お話を伺いました。

平成29年度 議会だよりモニター募集！

問合せ先 議会事務局
☎ 67-5120

分かりやすく読みやすい議会だよりへ

どのページから 読みますか

最初から全部見ているのですが、やはり表紙から見ます。
それから定例会などのページを順に見ますが、写真やタイトルに目が行きます。

前号と比べて違いが 感じられた所は

写真やグラフなどを使用し、全体的に読みやすくなっています。今回の号は、余白の使い方も気にならなくなり、見やすく全体的に分かりやす

く構成されて、よくまとまっています。これまでと比較し、最高の出来であると思います。
また、読むのが苦手な方でも最後まで読めるような量に要約されていますし、用語解説などもあり工夫されていると思います。

議会や議会だよりが話題 になったことはありますか

国立音楽院やこども公園、商店街の活性化の件などで話す機会があり、話題にしたことがありました。

また、指定廃棄物の処理方法や莫大な事業費の掛かるバイオマス関係、安全対策が求められるこども公園などの施策は、引き続き話題になると思います。

しかし、議会だよりを読んでもない方がほとんどで残念です。

将来子どもたちや孫たち世代にまで大きな影響があることと思いますので、関心があります。



「あれからどうなった」 の評価や感想は

タイムリーなものを周知する意味合いもあり、関心度や重要度の高いものを分野ごとにバランス良く選んでおり、とても良い企画だと思います。今後、学校の統合問題など

読者の皆さんへ一言

結果が出るまで長い時間を要するものなどの途中経過も、取り上げてほしいと思います。実際に定例会を傍聴してほしい。議場内で繰り広げられる町長と議員のやり取りなど、

その場の雰囲気も面白いですからね。議会だよりをどのように編集したのか、後から傍聴した内容と比較してみるのも楽しいですよ。



青砥とし江 さん（菜切谷）



高橋 昌全 さん（米泉）



渡邊 哲 さん（上小路一）



進行役の伊藤委員

議会だよりへ一言

議会だより55号（平成28年11月1日発行）に対する議会だよりモニターからのご意見・ご感想を紹介します。

モニター

これからも地域で活動しているイベントやサークル、または、行政区の試みなどを伝えてほしい。



広報委員会として

最終ページで、地域の取り組みなどを引き続き掲載していきます。今後も皆さまからの情報提供をお願いいたします。

モニター

議会だよりの重要性をモニターに選ばれてから、ひしひしと感じています。町を知る。町に参加する。町に住む。町で働く。加美町をもっと住みよい地域にするためにも議員の皆さまよろしくお願いします。



広報委員会として

これからも住みよい地域づくりのため頑張ります。今後ともご意見よろしくお願いします。



あれからどうなった

vol.27

平成27年12月・平成28年3月定例会の一般質問内容が、その後どう取り組まれたかをお知らせします。

議会広報No.53から

■国道347号線の整備要望は



問

国道347号線の通年通行におけるバイパス整備や携帯電話の不通箇所の解消は。

答

NTTのドコモ東北支社から基地局を設置する計画を進めているという報告がある。関係団体で観光パンフレットやのぼり旗を作成しPRをしていく。なお、引き続き県に、小野田バイパスや中新田バイパス整備を要望していく。

その後



■携帯電話のサービスエリア拡大へ

国道347号通年通行における携帯電話のサービスエリアは、平成28年11月19日からNTTドコモとソフトバンクが携帯電話サービス提供を開始しましたが、一部となっており全線通信可能に向け引き続き取り組んでいただくことにしております。

議会広報No.52から

■東山官衙遺跡に光を



問

東山官衙遺跡（鳥嶋行政区）は律令国家時代のもので大変貴重なものであり、なんとか光をあててほしい。

答

貴重な遺跡だと認識している。県道に3か所、遺跡内に8か所案内板を設置している。地域の宝として価値の再発見や魅力の発信に努めたい。

その後



■遺物展示会を実施

昨年11月に開催された賀美石地区秋祭りに併せ、東山官衙遺跡・壇の越遺跡遺物展示会を実施し、子供から大人まで約260人が来場しました。出土した土器や写真パネルなどを用いて学芸員が両遺跡を解説し、地元の貴重な遺跡について興味と関心を深める機会を設けることができました。

新春のごあいさつ

将来を見通せる社会の実現



議長 下山 孝雄

皆さまには、健やかで希望に満ちた新年を、お迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返ると、オリンピックでの日本選手の活躍、ノーベル賞授賞など、日本人としての誇りを感じさせる大変大きな喜びがありました。

世界では、イギリスのEU離脱やアメリカ大統領選でのトランプ氏の勝利など大きな話題となりました。グローバルズム

を拒絶し、政治が国家単位にとどまり、保護主義を好む傾向にあります。富の一極集中による失業や格差にあえぐ人々の不満が増大しており、非常に不安定な社会状況が心配されます。

国に地方創生を委ねるのは筋が違ふとの考え方もありますが、国との連携を持つことは大切であります。わが町では様々な施策でまちづくりに取り組みんでいます。人口

減少や少子高齢化などの課題が解決されているとはいいたくない現状です。

町が進めている事業を町民生活に「実」として結びつけられるよう取り組みでまいります。

地方が豊かになれば、国の推進力が生まれてきます。多様化する町民ニーズに適切に対応し、町民との協働で地域社会を守り育てて行かなければなりません。

●議長交際費内訳 (10月～12月)

情報公開

月	件数	金額	内 訳
10月	1件	3,000円	会費
11月	7件	26,000円	会費
12月	2件	18,000円	会費、お悔み
合計	10件	47,000円	

“傍聴に来てけらいん”

議会定例会の日程は、開会前に各家庭にチラシを配布してお知らせします。ぜひ、傍聴にお越しください。

議会傍聴された方

件 名	会 期	傍聴者数	
		男性	女性
12月定例会	12月7日～9日	8	3
1月臨時会	1月12日	0	0
合 計		8	3

受 付



傍聴の受付は、小野田支所3階にて行います。
受付では、住所・氏名・年齢をご記入ください。

傍聴席



傍聴席は一般席30席、記者席5席あります。
満席時には、2階の会議室で中継をご覧になれます。

次回の定例会は
2月中旬頃
の開会予定です

表紙写真の紹介



宮崎子ども獅子舞引き継ぎ式
宮崎小学校（1月10日）

これまで指導してきた地元関係者が見守る中、6年生最後の宮崎子ども獅子舞が披露されました。「これからも頑張るね」という思いと一緒に、獅子のお面や小道具などが5年生に引き継がれました。



～明るく活気のある地域づくりを～

宮崎・西原（45戸）

おらほの コミュニティ

檜野 榮夫 区長



西原行政区は、宮崎の旭地区に在ります。「西和会」という、青年会があり、世代が代わっても、同じ名前で活動しています。スポーツ大会、町行事、道刈り、防雪柵設置などに積極的に参加し、地区を盛り上げています。スポーツ大会では、綱引き、駅伝競走が、毎年上位入賞しており、宮崎地区総合スポーツ大会では、平成25、26年連続総合優勝を達成しています。

また、高齢者向け行事のミニデイサービスも、対象人数の八割を上回る参加率で、元氣いっぱいです。一番盛り上げるのは、懇親会で、老若男女、飲んで語って、盛り上がり過ぎて、予算が心配になります。数年前からは、懇親会を防災訓練終了後に行ない、防災意識を高めるきっかけにし、さらに区内の絆が深まっています。いつまでも明るく元氣な行政区でありたいと思っています。



われらが仲間

門沢嫁っこくらぶ

代表 今 藤 浩 子

発足は二十五年前で、門沢地区にいられたお嫁さんたちの心細さの解消や交流を目的に結成しました。

当初は集会所でお茶会をしながら、四方山話に花を咲かせましたが、回を重ねる毎に集まって来る方も段々と減って、最終的に七人での活動になってしまいました。そこで毎月積立を始め、小学生の子どもたちとの親子旅行でデイズニールランドに行ったことは忘れられない思い出になりました。クラブ活動としては手芸教室、料理教室の開催、食事会、旅行などにも出掛けています。また、おばあさんたちに日帰り温泉で一日ゆっくり過ごしていただいています。

十年前からは、地区の七十五歳以上の高齢者の方々に、メッセージを添えた手づくり弁当を召しあがっていただいています。お弁当の日を楽しみにして、喜んでくださる笑顔に出会うと、また頑張ろうと沢山の元氣をいただいています。

今後も地区の多くの人たちとふれ合いながら、皆さんに喜んでいただけるような活動を続けていきたいと思っています。



編集後記

委員会では41号から4年間同じメンバーで、議会だより作成に励んでまいりました。町民の皆さまに議会の内容が見えやすく分かりやすい、読みたい紙面作りに取り組んできました。

合併して新たに発刊された議会だよりの誕生から、今まで歴代の編集委員が培ってきたものを、しっかりと受け継ぎ、議会だよりを通じて、開かれた議会を進め、皆さまとともにまちづくりに励んでいきたいと思っています。

（猪股 俊一）

議会広報編集調査特別委員会

編集委員

委員長	味上 庄一郎
副委員長	猪股 俊一
委員	早坂 伊佐雄
委員	高橋 聡輔
委員	伊藤 由子
委員	工藤 清悦